

酒々井町

郷土研究会会報

第105号

平成14年7月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

酒々井町の不思議を訪ねて

「巖島山のカンカンムロ」

木内達彦

酒々井の巖島山に「カンカンムロ」というお伽話のような不思議な伝説が、いつ頃からか伝わっています。

なぜ巖島山に不思議な伝説が生まれているか、酒々井の小道を散策しながらその不思議を探ってみましょう。

酒々井小学校の西にある「肥前坂」を下ると、左手に本佐倉城跡、正面に印旛沼、右手に「巖島山」が見えます。水田に沿って歩くこと数分で、巖島山の西斜面に洞穴がぼつかりと口を開けています。これがカンカンムロで、「柏手を打って、お祝い事に使う椀や膳を貸してくれるようにお願いすると、明るる日に椀や膳を

貸してくれた。」という椀貸し伝説が伝わる場所です。

よく見れば洞穴は一つではなく、いくつかあります。この洞穴の正体は聖徳太子の時代のお墓なのです。作られた時、入口はふさがっていたのですが、山が崩れて入口が開いてしましてお供え物の「椀」や宝物が出て来たのです。でも「椀貸し」の話はどこにあるのでしょうか。

そこで巖島山に登ってみましょう。頂上は眺めが良く、近くは印旛沼・筑波山・遠くは利根川や日光まで見通せるほど、山中には印旛沼を望む戦国時代の見張り台があり「船の神、市の神」である巖島神社の祠が祀られていることに気づきます。そうです。戦国時代の昔、ここ酒々井には市があったのです。遠くの地域から巖島山を目印に、商人や職人が船でやってきて、色々な品物と共に不思議なお話も運んできました。

そのなかに椀を作る職人たちがいたのです。職人たちは洞穴から出てきた「椀」の話を酒々井の村人から聞いて、自分達の村に伝わる椀貸し伝説を、村人へ伝えたのでしよう。それは椀を作る職人たちの村に小さな池があり、「柏手を打って、お祝い事に使う椀や膳などを貸してくれるように、お願いすると、明るる日に椀や膳を貸してくれた。」というお話を、酒々井の村人はさもありませんと聞き入ったことでしょう。

暗い洞穴の奥に黄泉の国の入口があり、遠く離れた椀作りの職人の池に通じている。巖島山の椀は、椀貸し池の椀の一つだと納得したことでしよう。

このようにして、巖島山は異郷への入口となってお話が生まれました。その後、巖島山は印旛沼を守る砦として、殿様の許可がなければだれも立ち入ることのない場所となり、お話を確かめることも出来なくなりました。そして、沼辺のこんもりした山の不思議なお話だけが、酒々井の村に語り継がれることとなったのでしよう。一度、不思議さがしに出かけては如何でしょうか。

白井の古道を歩いて

森田艶子

木下街道、なんて懐かしい街道でしょう。私は市川市に生まれ育ちましたが、木下街道はその昔四〇分かけて中山小学校・中学校に通った道なのです。

今回は北総線の白井駅で下車。最初の見学場所秋本寺へ行く。本尊様は釈迦如来で境内に番神堂と右手に金剛棒を持つ白井七福神の毘沙門天があった。今年も元気に過ごせますようにとお願いして旧白井宿へ向かう。行徳と木下を結ぶ宿場町でかつては多くの店で賑わった古い建物は昔をしのばせる。白井鳥見神社の鳥居は石造りで建立が二九〇年前と古く町指定文化財だそうです。次は伊勢宇橋の碑。伊勢屋宇兵衛は社会奉仕事業として各地に橋をかけ、この橋は八六番目の橋と書いてある。神々廻木戸あとの馬頭観音を見学したあと、村の人達が化粧をしたという赤くぬられた庚申塔をみた時はギョツとした。今度は金色がいいねなどと話ながらバスに乗り、参加者

二五名元気に木下駅から電車て帰った。天気の良い楽しい一日だった。今日の歩行数一二五七六歩。

佐倉の

「武家屋敷」 界隈を歩く

岡田利光

三月二十二日の日帰り見学会は町バスで師戸城址、岩名仁王尊、草ぶえの丘、佐倉武家屋敷、堀田邸そして順天堂記念館と盛り沢山でしかも実のある見学会であった。

特に今回は郷土研究会会員で佐倉ボランティアの会の白石栄子さんにわかりやすい説明をしていただき、深く理解することが出来た。いっぱい勉強になったが感じたことは師戸城址の高台から眼下の印旛沼を経て佐倉市役所・歴博方面の眺望は半月早く迎えた満開の桜とマツチして非常にすばらしかった。佐倉藩政を支えた武家屋敷は鋪木小路にあり中級武士の屋敷で格式はあるが質素で、しかも石高により門・部屋割りから畳にまで異なっていること。地名の鋪木小路・宮小路などの小路とは大通りのことだそう。

また根古屋という地名が当町にもあるが城のある所には必ずある地名で語源は寝小屋からきているなど非常に面白かった。

城址公園で野草観察

寺本恵美

佐倉城址の観察会は、前回踊り子草という名のピンクや白い色の花がとても可憐だったのを思い出します。

今回は姥が池の反対側で、二輪草が辺り一面にかわいい白い花をつけていて歩くと踏んでしまいそうでした。カキドウシ、ムラサキサキゴケ、タンポポなどがそばで色添えをしていてとてもきれいでした。アヤメの田はまだ時期が早く、葉だけですが、マジヤクシの卵がありましたが、そばの畔では葉ワサビ、オオフサモが生き生きとしていて山裾にはコオニタピラコと思われる黄色の花が咲い



カキドオシ (シソ科)
くきがのびてかきねを通すのでこの名がある
高さ 5~25cm

ていました。先生からそれはヤブタピラコであると訂正されました。でもコオニタピラコと同じように食べられるそうです。

昼食後、前回よりも踊り草がたくさん咲いている所を通りながら心地好い気持ちで家路につきましました。亀井先生、今日はありがとうございました。

墨の今と昔を訪ねて

小熊せつ子

風薫る五月十二日、参加者六七名は、中央公民館をスタートして、東光寺・下台麻賀多神社を通り、地藏様や見る者の口許をいつの間にか緩ませる如意輪観音や庚申塔などに合掌し初めて見聞きする石幢六面地藏などに出合いました。畔道や山中での新緑の香りや色は私の五感をより一層活発にさせてくれたようです。昼食は、新装・拡大された東関東自動車道上りパーキングエリアで各人好みの食事をとりました。墨の分校跡では参加者の中には当時を懐かしそうに話をしてくれる人がいたりまた咲き乱れる花々や木々

の名前を教えてくれる人がいて、この会で巡り合った人達とのたわいない会話や冗談話に大笑いしながらのハイキングは新たな活力となりそうです。

郷土研究会会長の青木さんはじめ役員の方々に指導を受けながらの一日は、とても心に残り、母の日のプレゼントを手にしたような気がします。本当にありがとうございました。

酒々井パーキング
新規オープン



富津方面見学会に参加して

桂 啓子

去る六月三日月曜日木々の緑鮮やかな少し汗ばむ天気。大貫駅より三十分ほどで普和山・最上寺第三十二番岩瀬不動尊に着きました。境内には、ゆりの花の香りがいっぱいに広がります。私たちを迎えてくれました。人皇三十八代、天智天皇の御代

(六六八〜六七一)のこと、修験道の祖と仰がれる役の行者はその験力を以て四海道路を開鑿しました。当山最上寺は、役尊がこの祈りにここ岩瀬の地に一字を建立したのを濫觴とするそうです。

十一面観音菩薩を見学し古い歴史を感じました。ほけ封じ、魔除けの寺とのこと、しっかりとお願いをしました。

次にバスに乗って富津国定公園に向かいました。公園内で、自由に昼食をとり、のんびりと散策をしたり、話に花を咲かせたり、お土産を買ったりして有意義に過ごしました。京葉工業地帯・京浜地帯が見える山の展望台やジャンププール・キャンプ場などがあり、潮干狩りの家族連れ・恋人たちが楽しそうでした。一日のスケジュールも無事終わりました。

家路につきましました。



郷土史講座案内 『偉人の誕生に影の人あり』

文化財評論家 久保木良
世界の偉人野口英世博士のことはどなたも知っています。しかし彼を世界の偉人にした千葉県人血脇守之助のことは知る人は少ない。今回酒々井町郷土研究会で私が話す、千葉県の偉人伊能忠敬を偉人にした私の祖先久保木清淵(号竹窓)のことはほとんど知られていない。忠敬三十七歳にして、名主となり、その年、清淵二十歳の若さで師匠となるが、義兄弟のちぎりをかわし、忠敬の死後も死を秘して、日本沿海実測全図の完成の指揮を取ったことを、近頃の映画では全く紹介されることもなかった。忠敬の影にあって、忠敬を世に出した話をします。

知事的笑顔は日本一

千葉県の花県民会議が五月十日の夕刻から、堂本知事をお迎えして開催されました。にこやかに入場される知事的笑顔は、県政は県民と共にありたいと願われる千葉県の誇れ

る日本一の知事的笑顔と胸にあつい感動が広がりました。色々な思いをのりこえ提案者席に立ったもの町や郷土研究会を背負った重責に押しつぶされそうでしたが、知事の寛大な「うなずき」を頂きながら、また多くの皆様の励ましに何とか発表出来ましたことにほっとし、皆様に心より感謝申し上げます。

テーマは「本佐倉城跡の保存整備と里山づくり」として、要旨は本佐倉城跡が平成十年九月十一日に国の史跡に指定され、指定区域内の用地の収用も平成十五年には終了予定で、その後の城跡を中心に周辺地域を含めた保存と活用策の検討を進める必要がありどのような保存活用策が理想的な方策なのか、これらをどのように実現していくのかなど課題も多岐にわたる。この点で検討を進めていた。一点目は史跡区域内については文化財調査に基づくすべての城の建造物復元などにより千葉県下唯一の中華戦国の歴史体験の出来る場所としてまた児童生徒が総合学習の学びの場として住民の憩える歴史公園にする。

二点目は城跡周辺地域の自然環境を活用し、中世戦国の歴史と里山体験、市民農園、観光農園として体験

農業が行える場所とする。三点目は城の復元、里山づくりなどはどのように進めていくのか。これらの維持管理には土地所有者や地域の方々ボランティアの方々の活用が必要であり、多くの住民の声を聞いて反映させて検討する。

以上三点ですが「本佐倉城跡の保存と里山づくり」の夢が実現されたいことを、お願ひし、終わりに知事にも一度本佐倉城跡を訪ねて頂きますよう申し上げて提案を終わりました。

郷土研究会日誌

月日	内容	人数	月日	内容	人数
3/23	編集	5	21	古文書学習	9
26	印刷	5	5/27	名勝探訪下見	3
29	会報発送	24	30	運営委員会	21
4/6	一泊受付	3	30	研修部会	10
11	野草観察	25	1	史談会	10
16	古文書学習	11	6/3	名勝探訪	33
5/11	史談会	17	8	会報編集	5
11	会報編集	5	10	木下街道	23
12	町内史跡巡り	67	11	古文書学習	10
20	資料作り	2	21	会報編集	5

見学

案内

名勝探訪



九月十三日(金)

雨天代替九月十八日(水)

岩槻方面

残暑厳しい中、岩槻方面の不動尊巡りに出かけます。岩槻はその昔は岩槻城を中心とする城下町で、日光御成街道の宿場町として栄えました。この城は白鶴城ともいい室町時代に太田道灌が築城したものです。

また岩槻は江戸時代から「人形の町・岩槻」として有名です。伝統工芸の心に触れながら、岩槻城跡を整備した岩槻公園で昔をしのび、資料館で知識を養い、住宅街をブラブラ歩き、歴史を刻む鐘の音を聞きながら、のんびりと一日、あたりを散策します。

そして車中で夕日を眺めながら家路につきましましょう。

古文書学習案内

今まで酒々井町中川の岡田新右衛門家に伝わる岡田家文書を学習してきましたが、お役所(佐倉藩)からの通達・お願上申書が主でした。ここで気分を一新する意味で「教訓心学図絵(寺小屋で使用していた道徳の教科書)」を使用してみたいと思います。嘉永年間に愛読されていたましたが絵がついてるので字の読めない人でも絵で説明出来、わかるようになっています。漢字が少なく専ら変体仮名で書かれていますので判りにくい変体仮名の習得に絶好の教本と思います。どうぞお気軽に御参加下さい。

青木朝次



あとがき



梅雨の中、束の間の雨上がりに田んぼの畔道を歩いてみるとおいしい空気が何とも言えません。

六月八日千葉市中央区で肥前千葉氏の講演会がありました。ふるさとの歴史・文化をよく理解し大切に思う気持ちはどこでも誰でも共通しているものですね。

また五月のなの花県民会議で「本佐倉城跡の保存整備と里やまづくり」について意見発表がありました。これからも皆で考えていきたいと思えます。

さて今期は古文書学習のテーマが新しくなりました。江戸末期の庶民の生活の一端が判るかもしれませぬ。一度足を運ばれてみてはいかがか。

郷土研行事案内 平成14年7月～9月

史談会	7月 6日(土) 13:30 会議室 「道が語る酒々井の歴史」⑨ 講師：高橋健一先生	8月 休講	9月 7日(土) 13:30 会議室 「道が語る酒々井の歴史」⑩ 講師：高橋健一先生
	古文書を 読む会	7月 16日(火) 13:30 社会福祉協議会 「教訓心学図絵序」	8月 休講
郷土史 講座	8月18日(日) 13:30 会場：中央公民館講堂 演題：「偉人の誕生に影の人あり」 13:00開場 講師：文化財評論家・久保木良先生 入場無料 後援：酒々井町教育委員会 御来場お待ちしております。 おります。		
名勝探訪	9月13日(金)「埼玉県岩槻方面」 雨天代替9月18日(水) 集合 京成酒々井駅 8:10 行程 京成酒々井駅—  —京成船橋駅—  —東武船橋駅—  —岩槻駅—  —第31番岩槻大師(昼食)—  —人形歴史館—  —郷土歴史館—  岩槻駅—  —船橋駅—  —京成酒々井駅(16:30予定) (行程に一部変更あり) 弁当・飲み物 必ず持参		

「酒々井のあゆみ」第4集

10月1日発行予定です。